

アメリカ英語における ‘shy of/on’

‘Shy of/on’ in American English

末 松 信 子

I

形容詞 *shy* は、主に、下例 a のように「内気な、恥ずかしがる」という意味の他に、下例 b のように「ためらう、用心深い」、c のように「(数量が) 不足している (*short* [of], *lacking*)」等の意味で使われる。

- a. He was shy in the presence of strangers.
- b. She was shy of telling the truth.
- c. He was shy of funds.

上例のうち、c の *shy* は叙述用法で用いられ、主にアメリカの口語的用法と言われているが、日本の学習者にはあまり馴染みのない用法である。加えて、後続の前置詞は、*of* の場合もあれば *on* を伴うこともある。小論では、この「足りない、不足して」を表す用法が、アメリカ英語でいつ頃用いられるようになり、いつ頃一般化するのか、どのようなジャンルに多いのかといった点について、大規模なアメリカ英語コーパスを利用して、その実態を観察したいと思う。

本調査のために利用した現代アメリカ英語のコーパスは、Brigham Young 大学の Mark Davies 教授が構築した 1820 年から 2019 年までの約 4 億 7 千 5 百万語からなる The Corpus of Historical American English (<http://corpus.byu.edu/coha>) (以下、COHA と略記) である。

II

本論に入る前に、「足りない、不足して」を意味する *shy* に関する内外の辞書、語法書等の見解を見てみよう。

イギリス系の辞書では、LDCE (2014⁶) が “be shy (of something)” として “to have less than a particular amount of something” の意味を載せ、especially American English と記している。COD (2011¹²), Chambers (2014¹³), OALD (2015⁹), ODE (2005²) はこの用法を *informal* としている。アメリカ系の辞書では AHD (2011⁵) は “short; lacking”、MWCD (2012¹¹) は “having less than the full or specified amount or number: SHORT” の意味を載せており、WNWD College Edition (1994³) には “Slang” との表記がある。わが国のものでは、『プログレッシブ英和辞典』第 5 版 (2012) は、叙述用法、特に米略式で、「(…に関して) 数量が不足している」を意味し、前置詞は *of* をとる、としている。また『ジーニアス

英和辞典』第5版(2014)には、足りない数量は shy の前に置く、との記述がある。

語法書ではイギリス系でこの shy の用法に言及しているものは見られない。アメリカ系の WDEU (1989) は、shy が “showing a lack” or “short” の意味を持つとき、of を従えらととしている。わが国のものでは、大塚・小西 (1973) が、口語または俗語で short of の意味に shy of (or on) が用いられる、という。また、of, on を略して shy 1 語を数詞の前に付けていうこともあるとし、例として “We are shy two clerks this morning. (けさ事務員がふたり足りない)” を挙げている。さらに Mathews 等はこの用法を米国語法とみなしているが、今日では英国でも用いられるようである、と述べている。小西 (2011) も、shy が主に米国語法で「不足している」という意味で用いられることがある、という。また、前置詞としては of をとるのが普通、ときに on も用いられるとしている。さらに、数量が後に続くときには前置詞は省略できるとしている。

歴史的原理に基づいて編纂された辞書で初出年代を見てみよう。OED 2 on CD-ROM (s.v. shy, a. 6.b.) は “U.S. Short (of), lacking. Also const. on. *Betting slang* (see quot. 1895).” として、下記の例を初出例として挙げている。(以下、引用文中の下線は筆者のものである。)

1895 *Funk's Stand. Dict.* s.v., Having a less amount of money at stake than is called for by the rules of the game; short; as, to be shy a dollar in the pool.

Mathews (1951) は “a. Short, lacking, without, originally a poker term. Also with *of, on. Colloq.*” とし、OED 2 on CD-ROM より少し早い 1887 年の下記の例を挙げている。

1887 KELLER *Draw Poker* 28 The worst of all poker habits, owing the pool, or ‘going shy,’ as it is called, results from the non-observance of this very important rule.

前置詞を伴う例としては、“shy of” は OED 2 on CD-ROM (s.v. shy, a. 6.b.) が挙げる 1896 年、“shy on” は Mathews (1951) が挙げる 1916 年の例が最も早い。

1896 S. Crane *Little Regiment* etc. 187 None knew how an orderly sergeant ranked, but then it was understood to be somewhere just shy of a major-general's stars.

1916 BOWER *Phantom Herd* 80 If they're shy on the number [of costumes], they better set down and make enough.

以上のことをまとめると、「不足している」を意味する shy は、19 世紀終わり頃からアメリカ英語で用いられ始めた口語法であり、前置詞をとる場合には of が一般的で、ときに on が用いられ、数量が続くときには前置詞が省略されることがあるということになるだろうか。これらのことを踏まえて、アメリカ口語法とされる「不足している」の意味の shy について、その実態を見ていこうと思う。

III

Mark Davies 教授が構築したアメリカ英語の歴史的コーパス COHA (1820 - 2019) を利用して、1820 年以降のアメリカ英語における歴史的変遷を見てみよう。今回は前置詞 *of*, *on* を伴う *shy* に限定して調査を行った。(数量を表す語句が、前置詞を伴わず直接後続する *shy* については今後の課題としたい。) 次の表 1.1 は、「不足している」に相当する意味を持つ *shy* について、前置詞別に、その頻度を 10 年毎に示したものである。

表 1.1 : COHA における ‘*shy of/on*’

	<i>of</i>	<i>on</i>	計
1820-	0	0	0
1830-	1	0	1
1840-	0	0	0
1850-	0	0	0
1860-	0	0	0
1870-	0	0	0
1880-	0	0	0
1890-	1	0	1
1900-	0	1	1
1910-	0	0	0
1920-	1	0	1
1930-	1	1	2
1940-	3	0	3
1950-	8	0	8
1960-	12	1	13
1970-	13	1	14
1980-	12	0	12
1990-	42	0	42
2000-	115	1	116
2010-	94	1	95
計	303	6	309

上表によれば、「不足している、足りない」を意味する *shy* は 1830 年代に初めて起こり、1890 年代から散見されるようになる。そして 1950 年代頃から増え始め、1990 年代以降は急激に増加している。また、前置詞を伴う場合には、*of* が一般的であり、稀に *on* が用いられている。COHA は収録語彙数が、例えば 1820 年から 1829 年は約 700 万語、1900 年から 1909 年は約 2 千万語、2000 年から 2009 年は約 3 千 5 百万語といったように、年代によって差がある。この差による影響がな

いか、1千万語あたりに換算して頻度数を示したのが次に示す表 1.2 である。

表 1.2 : 1 千万語あたりの 'shy of/on' の頻度数

	<i>of</i>	<i>on</i>	計
1820-	0	0	0
1830-	0.73	0	0.73
1840-	0	0	0
1850-	0	0	0
1860-	0	0	0
1870-	0	0	0
1880-	0	0	0
1890-	0.49	0	0.49
1900-	0	0.46	0.46
1910-	0	0	0.43
1920-	0.39	0	0.39
1930-	0.36	0.36	0.72
1940-	1.09	0	1.09
1950-	2.79	0	2.79
1960-	4.12	0.34	4.46
1970-	4.71	0.35	4.86
1980-	4.06	0	4.06
1990-	12.67	0	12.67
2000-	33.03	0.29	33.31
2010-	26.51	0.28	26.8

表 1.2 によれば、1 千万語あたりで見ても、1890 年代から散見されるようになり、1950 年代頃から増え始め、1990 年代以降急増している傾向は変わらないことがわかる。以下に、shy of と shy on の初出例をそれぞれ示す。

- (1) ; the same red, warm, honest, Puritan fluid, which has always been so shy of any place in a villain's veins, and so quick to mount when battle was to be done for principle and freedom. (1837 MAG: Massachusetts Common Schools)
- (2) they have lots of land, but are running shy on money, (1909 FIC: Happy Hawkins)

上例 (1) は Matthews (1951) の挙げる「不足する」を意味する shy の初出例 (1887 年) より 50 年早いものであり、OED 2 on CD-ROM (s.v. shy, a. 6.b.) の挙げる 1895 年の例より 58 年早い。また上

例 (2) は、Matthews (1951) の挙げる shy on の初出例 (1916 年) よりも 7 年早いものである。

「不足している」を意味する shy はくだけた用法とする辞書、語法書は多い。ジャンルによって使用に違いは見られるのであろうか。COHA は 1820 年から 1920 年代までは Fiction, Magazine, Newspaper, Non-fiction の 4 つのジャンルからのデータを収録し、1930 年からは Movies and TV を追加して 5 つのジャンルから構成されている。収録語彙数は Fiction が約 2 億 2 千万語、Magazine 約 1 億 1 千万語、Newspaper 約 4 千 5 百万語、Non-fiction 約 6 千万語、Movies and TV 約 4 千万語である。ジャンル毎の収録語彙数にも差があるため、1 千万語あたりの頻度数で示したのが表 2 である。

表 2: ジャンル別 1 千万語あたりの ‘shy of/on’ の頻度数

	Fiction	Magazine	Newspaper	Non-fiction	TV&Movie
<i>of</i>	5.08	9.32	13.27	2.13	4.5
<i>on</i>	0.13	0.09	0	0.16	0.25
計	5.26	9.41	13.27	2.29	4.75

上表によれば、「不足している」を意味する shy は、新聞で最も多く用いられている。次いで雑誌、小説、テレビ・映画、ノンフィクションの順となっている。shy のこの用法は、口語だけでなく新聞や雑誌といった書き言葉でも用いられるようになってきているといえるのではないだろうか。ジャンルごとにそれぞれ 1 例ずつ挙げる。

- (3) The road he drove now was framed by trees just shy of their peak of fall color. (2000 FIC: Once Upon Dream)
- (4) But he still remained shy of the 61 needed for a parliamentary majority. (1984 MAG: Time)
- (5) However, the vote was seventeen shy of the necessary two-thirds. (1958 NEWS: NYT-REG)
- (6) She slipped away three months shy of her 93rd birthday. (2000 NF/ACAD: Hospital Topic)
- (7) “Well, he’s still shy of his goal.” (2015 TV/MOV: Silicon Valley)

先にみた『ジーニアス英和辞典』第 5 版 (2014) は足りない数量は shy の前に置くとしている。今回の調査でも、全 309 例中 192 例 (62.1%) は、下例 (8) のように数量を表す語句を前にとっている。「不足している」を意味する shy は、数量を表す語句に後続する場合が多いといえるだろう。

- (8) But it was ten minutes shy of four; (1965 FIC: Stitch)

IV

以上、「不足している」の意味の shy について、アメリカ英語の大規模コーパスを利用してその実状を見てきた。まとめると次のようになる。

「不足している」の意味の shy が前置法を伴う用法は、1830 年代に初出し、1890 年代から散見されるものの、増加するのは 1950 年代からであり、1990 年代以降急増する。前置詞は of が一般的であり、on は極めて稀である。口語法とされているが、新聞や雑誌などの書き言葉でも多く用いられている。前に不足する数量を表す語句を伴って用いられることが多い。日本人学習者には馴染みの薄い shy の用法であるが、今後さまざまなジャンルでその使用が増えていくのではないだろうか。

参考文献（小論で言及したもののみ）

- AHD (2011⁵) = *The American Heritage Dictionary of the English Language*. 5th ed. Houghton Mifflin Harcourt, 2011.
- Chambers (2014¹³) = *The Chambers Dictionary*. 13th ed. London: Chambers Harrap Publishers.
- COD (2011¹²) = *The Concise Oxford Dictionary*. 12th ed. Oxford: Oxford University Press, 2011.
- LDCE (2014⁶) = *Longman Dictionary of Contemporary English*. 6th ed. London: Longman, 2014.
- MWCD (2012¹¹) = *Merriam-Webster's Collegiate Dictionary*. 11th ed. Springfield, MA: Merriam-Webster. 2012.
- Mathews, Mitford M. (ed.). 1951. *A Dictionary of Americanisms on Historical Principles*. Chicago: University of Chicago Press.
- OALD (2015⁹) = *Oxford Advanced Learner's Dictionary of Current English*. 9th ed. London: Oxford University Press.
- ODE (2005²) = *Oxford Dictionary of English*. 2nd ed. Oxford: Oxford University Press.
- OED 2 on CD-ROM = *The Oxford English Dictionary, Second ed. on CD-ROM*. Version 4.0. Oxford: Oxford University Press, 2009.
- WDEU = *Webster's Dictionary of English Usage*. Springfield, MA: Merriam-Webster, 1989.
- WNWD College Edition (1994³) = *Webster's New World Dictionary of American English. Third College Edition*. New York: Prentice Hall.
- 大塚高信・小西友七（編）. 1973. 『英語慣用法辞典 改訂版』三省堂.
- 小西友七（編）. 2011. 『英語語法辞典 小型版』三省堂.
- 『ジーニアス英和辞典』大修館書店, 2014⁵.
- 『プログレッシブ英和中辞典』小学館, 2012⁵.